渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）主催

第73回SGRAフォーラム

「パレスチナの壁：「わたし」との関係は？」

2024 年 6 月 25 日（火）17：30～19：00

昭和女子大学学園本部館3F大会議室およびオンライン（Zoomウェビナー）の

ハイブリット開催、参加無料、日本語・英語（同時通訳）

参加には事前登録が必要です。

（最後のページ「参加にあたってのお知らせ」をご参照ください）

【趣　　旨】

パレスチナ問題は「複雑すぎる」と言われます。しかし、客観的な事実や人道的な観点から考えると、この問題はすべての人に関わっています。フォーラムでは専門家、パレスチナ出身者、パレスチナ支持の活動を行っている学生の声を取り上げ、なぜこの問題が全ての人にとって重要なのか、そしてその問題を取り上げようとするときに直面する壁について話し合います。

「壁」という言葉には複数の意味が込められています。一つは、パレスチナ問題について公然と話すことを阻む見えない壁であり、タブーと言論の自由への抑圧を象徴しています。もう一つは、パレスチナ領土での継続的なアパルトヘイト（人種隔離）と植民地化の結果として存在する物理的な分離の壁です。世界中での学生の抗議活動は、これらの見えない壁を取り壊す試みであり、パレスチナ問題に対する公開討論を促進する力となっています。これはパレスチナ問題に対する新たな視点を提供すると同時に、世代間の意識の違いとその変化を示唆しています。

フォーラムを通じて、参加者はパレスチナ問題に対する多面的な理解を深め、グローバルおよびローカル、マクロとミクロな視点からのアプローチを考察する機会になると期待しています。

【プログラム】

17:30　開始（司会：シェッダーディ・アキル、慶応大学訪問講師）・
　　挨拶（今西淳子、SGRA渥美財団代表）

17:35　発表①　ハディ ハーニ（明治大学特任講師）
　　「パレスチナ問題の基礎知識：改めて、歴史と政治的構図の要点を抑える」（日本語）

18:05　発表②　ウィアム・ヌマン（東京工業大学大学院生）

「建築の支配：植民主義の武器としての建造環境」（英語）

18:20　発表③　溝川貴己（早稲田大学学部生）
「立ち上がる学生、クィア、環境活動家たち：2023年10月以降の東京のパレスチナ解放運動」（日本語）

18:35　質疑応答・ディスカッション（日本語・英語）
モデレーター：徳永佳晃（日本学術振興会特別研究員PD　日本大学）
オンラインQ&A担当：郭立夫（筑波大学助教）

19:00　閉会・懇親会開始

＊　フォーラム後、パレスチナ料理の懇親会にもぜひご参加ください！（参加費無料）

＊＊　同時通訳はZoomで行うため、会場にて同時通訳を利用する方は、端末（スマートフォン、ノートパソコン等）およびイヤホンをご持参ください。

【発表概要】

発表①　「パレスチナ問題の基礎知識：改めて、歴史と政治的構図の要点を抑える」

（ハディ ハーニ、明治大学特任講師）

現在、世界中でパレスチナ人と連帯する運動が巻き起こっており、日本社会にも多くの参加者がいます。ただし「停戦」のみならず、その先に正義を実現するためには、構造的かつ本質的な変化へとつながる長期的な視野を持つことも重要です。そのために第一に重要なことは、シンパシーだけではなく、知識と論理に裏打ちされた正しさに則って行動することだと考えられます。このため今回のイベントでは、最新情勢や新事実の解説というよりは、パレスチナ問題の長く複雑な歴史や、現状の政治的構図を理解するうえで重要かつ基本的なポイントを解説し、全ての人が共有すべき基礎を確認することを目的としています。

発表②　「建築の支配：植民主義の武器としての建造環境」

（ウィアム・ヌマン、東京工業大学大学院生）

建築物は、政治の物理的な顕現であるといえよう。デザイナーの世界観を表すのみならず、政治的な支配の装置としても使われている。ヨルダン川西岸地区およびガザの植民地様式で明確に表示されているが、東京や世界中で起きているパレスチナ支援のデモに選ばれている公共的な空間にも目には見えない象徴として働きかけている。

本発表では、パレスチナ人が日常的に経験する抑圧および支配に影響する建築措置と同様でありながら控えめな建築支配の措置である公共場所の平行線を引き、考察する。

発表③　「立ち上がる学生、クィア、環境活動家たち：2023年10月以降の東京のパレスチナ解放

運動」

（溝川貴己、早稲田大学学部生）

2023年10月以降、在日パレスチナ人だけでなく、学生、クィアコミュニティ、環境活動家といった様々な人々のコミュニティが、即時停戦とパレスチナ解放を訴えて、デモやイベントを行っていた。ここでは、この人々がパレスチナ/イスラエルにどのように向き合い、この7か月間どのような試みを行ってきたか、東京での事例を紹介する。

【登壇者紹介】

【発表者】

ハディ ハーニ　Hani Abdelhadi

1992年埼玉県生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業。同大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。2023年より明治大学特任講師。東京ジャーミイ文書館理事等を兼務。主な論文に「パレスチナ問題における解決案の行き詰まり」「イスラーム法からみるパレスチナ問題」などがある。

溝川貴己　Mizokawa Takami

早稲田大学文学部中東・イスラーム研究コース在籍。研究分野は現代アラビア語文学とアラブ世界のクィア。翻訳活動やパレスチナ解放運動にかかわる。

ウェアム・ヌマン　Weam Numan

両親がパレスチナ出身のパレスチナ・ヨルダン人の建築家・ゲーム背景デザイナー。東京工業大学から修士号取得。認知とバーチャル・ゲーム建築の影響について研究しながら、パレスチナ支援活動に関わる。ヨルダン、ヨーロッパ、アメリカのゲーム業界で5年間の経験を積み、現在は日本で3D背景アーティストとして働いている。

司会：シェッダーディ　アキル　Cheddadi, Mohammed Aqil

モロッコ出身。モロッコ国立建築学校卒業。慶應義塾大学政策・メディア研究科環境デザイン・ガバナンス専攻修士号取得・博士課程在学。同大学総合政策学部訪問講師。2022年度渥美奨学生。本フォーラムでは日本在住のアラブ人という視点からパレスチナ問題の現状や解決の可能性について考える。

モデレーター：徳永 佳晃　Tokunaga Yoshiaki

東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。日本学術振興会特別研究員PD（日本大学）、2023年度渥美奨学生。専門はイラン地域研究・近代政治史で、主な邦語論文に「「不法な影響力の排除」を目指して：パフラヴィー朝成立期のイランにおける1304年選挙法改正(1925)」『歴史学研究』(1044)などがある。

オンラインQ&A担当：郭立夫　Guo Lifu

中国出身。クアラルンプール建設大学言語情報学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了。同大学院地域文化専攻博士号取得。2024年より筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局助教。学部と修士課程の間では、北京LGBTセンターや北京クィア映画祭をはじめ、中国における性的マイノリティの社会運動に携わってきた。研究テーマはポスト／新冷戦構造における中国の性の政治。主な論文に「Medals and Conspiracies: Chinese and Japanese Online Trans-Exclusionary Discourses during the 2020 Tokyo Olympic Games」、「中国における包括的性教育の推進と反動：『生命を大切に：小学生性健康教育読本』を事例に」、「終わるエイズ、健康な中国：China AIDS Walkを事例に中国におけるゲイ・エイズ運動を再考する」などがある。

【参加にあたってのお知らせ】

■　参加には事前登録が必要です。

QR コードまたはURL からお申込みください。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_UH6bfz9cTO6OsLWIzMi8Hw#/registration

■　お問い合わせ

SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp

■　昭和女子大学学園本部館**3F**大会議室

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57

会場：https://www.aisf.or.jp/sgra/wp-content/uploads/2024/05/SGRAForum73Map.pdf

会場へのアクセス：https://office.swu.ac.jp/other/campusmap.html